

9. 日本語・日本文化教育センターカリキュラム・ポリシー

同志社大学日本語・日本文化教育センターは、本学に在学する全ての外国人留学生に対する日本語・日本文化教育を担っており、対象とする外国人留学生の種別は以下のとおりである。

1. 各学部・研究科所属留学生（正規学生・特別学生）
2. 外国協定大学からの交換留学生および日本語・日本文化教育センターとの学部間協定に基づく受入留学生
3. 日本政府国費による日本語予備教育生
4. 日本政府国費による日本語・日本文化研修留学生
5. グローバル教育センター生
6. 本学にセンターを設置している海外大学プログラムによる留学生
AKP同志社留学生センタープログラム
チュービンゲン大学同志社日本研究センタープログラム
スタンフォード日本センタープログラム
京都アメリカ大学コンソーシアムプログラム
7. 各種短期留学プログラムによる留学生
なお、上記6および7は、各センターまたは派遣元大学等が独自の教育計画ならびにカリキュラムに基づいてプログラムを実施しているため、ここでは言及しない。

- ・以上の留学生に対して、日本語運用能力を向上させ、日本文化に対する理解を深め、更には相互的な国際理解促進に貢献する人物を養成するため、学生の日本語能力のレベル、日本留学の目的に応じたカリキュラムを設置する。
- ・日本語学習を主目的とする学生を対象に《集中コース》、日本語学習を主目的としない学生を対象に《選択コース》を設ける。学習者の日本語能力により学習段階を「9段階（初級前期・初級後期・初中級・中級前期・中級後期・中上級・上級前期・上級後期・超上級）」に分け、《集中コース》には日本語科目（各学期に1～9の学習段階ごとにそれぞれ10～11科目）、《選択コース》には日本語科目（各学期に1～9の学習段階ごとにそれぞれ2～7科目）を設置し、学習の目的に応じて、適正な日本語レベルの能力に応じて学ぶ。
- ・上記を補完・強化し、資格を取得する目的で、日本語・英語演習科目（留学生の種別により、また日本語学習段階ごとに受講制限）、日本文化・社会への理解、国際理解を深める目的で、日本事情・国際事情科目（一部の科目は英語、中国語、韓国語で開講）を設置する。
- ・日本語科目は、日本語の4技能（聞く・話す・読む・書く）をレベル別に総合的に習得する基幹科目となる総合科目と、読解・語彙・文章表現・口頭表現および文法の技能別科目から構成され、各自の目的に応じて科目を柔軟に選択し、能力を向上させる。
- ・日本語能力試験や日本留学試験対策等を目的とした日本語演習科目、英語の資格・検定試験対策を目的とした英語演習科目は、日本語及び英語能力の向上や資格取得を目標とする者が履修する。
- ・ビジネス日本語科目は、日本で仕事をするために必要な日本語を身につけることを到達目標とし、ビジネスの場面で出会う日本語やビジネスマナー等を学ぶ。
- ・日本の言語・芸術・思想・宗教・法と政治・歴史・社会・生活と文化ならびに異文化コミュニケーションなどに関する日本事情・国際事情科目を柔軟に選択し、日本や国際文化・社会について理解を深める。
- ・日本語特講演習は、日本語、日本文学、日本文化等について、自ら選択した研究課題に関連する専門知識を習得し、研究発表や論文作成が行えるようになることを到達目標とし、学術的・科学的見地から分析する能力を養う。
- ・日本事情・国際事情科目の一部には、海外に向けた日本文化の発信および相互的な国際理解の促進を図るために、日本人学生と外国人留学生がともに日本文化や伝統、歴史などを学べる科目も提供している。